

2009/4/17開催・月HC資産運用セミナーvol.16

本源的投資収益としての利息配当金

～時価(キャッシュフローの現在価値)からキャッシュフローそのものへ～

セミナーアンケート結果

HCアセットマネジメント株式会社

2009.4.27

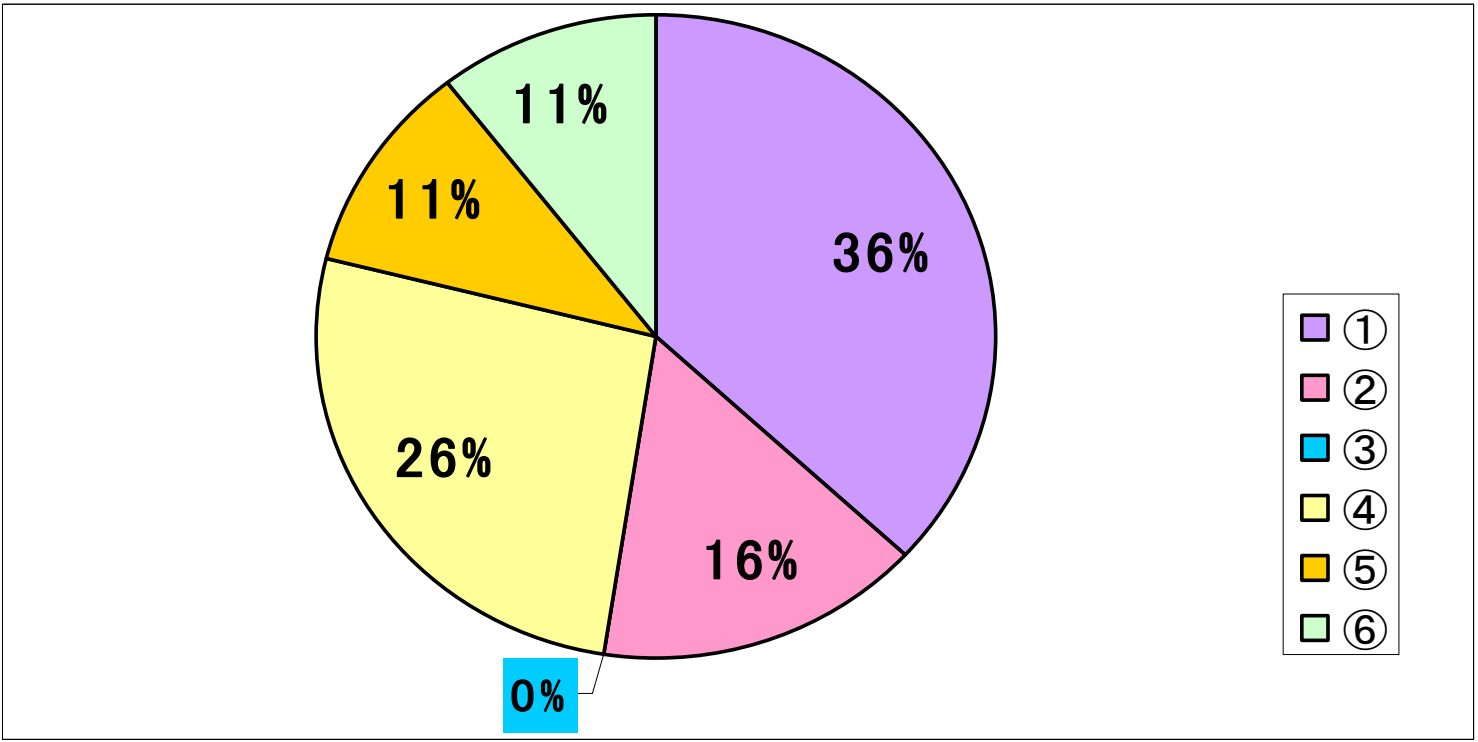


- ・セミナー参加者人数 計32名
- ・アンケート回答者人数 計19名

回答率 : 59%

※小数点第一位以下切捨

アンケートにご協力頂いた方の業種別割合

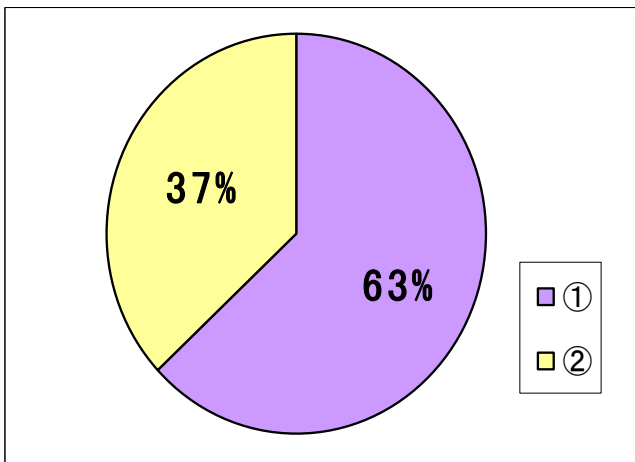


	人数
①	7
②	3
③	0
④	5
⑤	2
⑥	2

- ①年金基金もしくは母体企業の資産運用管理者
- ②金融機関の自己資産運用担当者
- ③大学財団など、その他法人の資産運用担当者
- ④投資運用業者(信託銀行を含む)
- ⑤コンサルタント
- ⑥その他

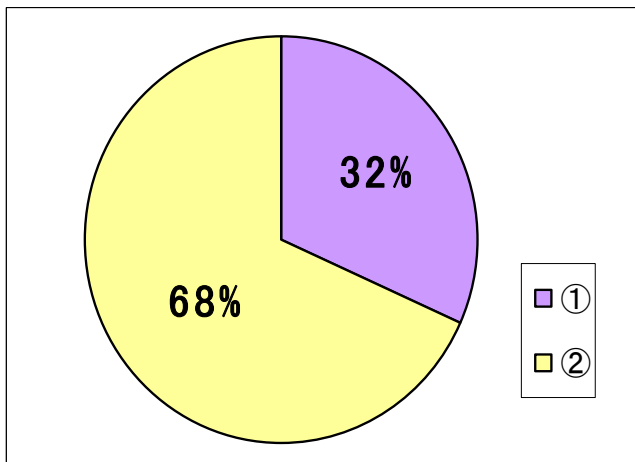
アンケート結果Q1～Q3

Q1. 債券の運用について、どのようにお考えでしょうか。どちらかと言えば、より近いほうを選択ください。



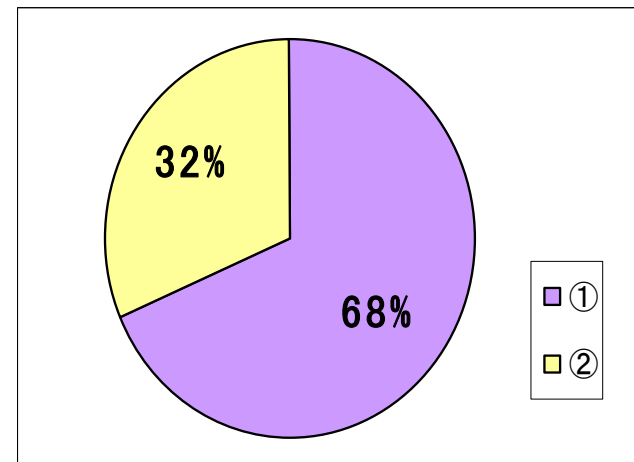
- ① 金利収入を得ることが目的なので、適宜、入替えを行うにしても、原則としては、満期まで保有する前提で銘柄選択を行う。
- ② 価格変動を見込んだトータル・リターンで考えるべきなので、原則としては、途中売却の可能性が高いことを前提に銘柄選択を行う。

Q2. 株式の運用について、どのようにお考えでしょうか。どちらかと言えば、より近いほうを選択ください。



- ① 株式の理論価格は配当流列の現在価値なので、将来の配当余力を基準に銘柄選択を行う。
- ② 企業価値の本質は、内部留保の将来へ向けた投資能力にあるので、成長戦略を基準に銘柄選択を行う。

Q3. 不動産の運用について、どのようにお考えでしょうか。どちらかと言えば、より近いほうを選択ください。



- ① 不動産投資の本質は、賃料収入を得ることなので、将来的な価格上昇は見込むべきではない。
- ② 確かに賃料収入を得ることが目的だとしても、インフレ等による賃料の上昇により、結果的に不動産価格の上昇をもたらす点が、より重要な要素である。